独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
令和元年度自閉症班基礎的研究活動

自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！

失敗すると激しく落ち込むカノンちゃん

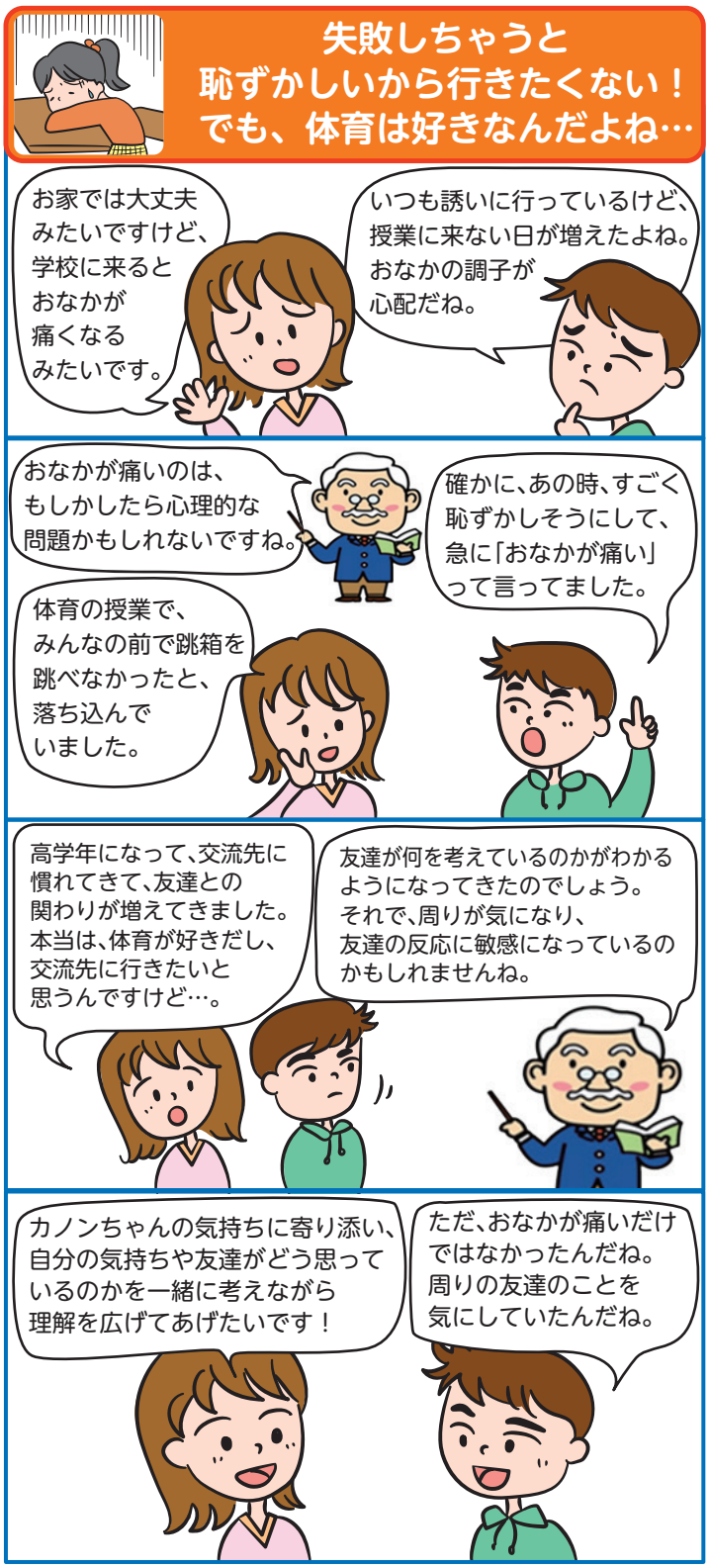
自分の伝えたいことを衝動的な行動で表すだいすけくん

ナイセ博士

カノンちゃんとだいすけくんの先生は、困っているご様子ですね。でも、困っているのは、先生だけでしょうか？
２人の先生と一緒に、なぜ、このような状況になったのかを振り返ってみましょう。

子どもの姿から、実態を振り返ってみましょう

子どもの立場になって行動の意味を考えてみましょう



子どもがどのような時に困難さを示したか、どのような場面で主体的に（意欲的に）学んでいたのか、それらの**理由を振り返ることは、子どもの実態をより深く理解する**ことにつながります。
個々の子どもの実態（困難さと長所やよさ）から、その子どもにとって必要な指導内容を考えるのが、**「自立活動の指導」**です。
次では、自立活動の指導とは何かを確認しましょう。その上で、カノンちゃんとだいすけくんの自立活動の指導目標と指導内容を一緒に考えてみましょう。

自立活動の指導とは？

自立活動の指導は、個々の子どもが自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動です。
自立活動の内容は、６区分 27 項目で構成されています。

詳しくは、
「学習指導要領解説
自立活動編」を！

健康の保持

（1）生活のリズムや生活習慣の形成に関すること
（2）病気の状態の理解と生活管理に関すること
（3）身体各部の状態の理解と養護に関すること
（4）障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること
（5）健康状態の維持・改善に関すること

心理的な安定

（1）情緒の安定に関すること
（2）状況の理解と変化への対応に関すること
（3）障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

人間関係の形成

（1）他者とのかかわりの基礎に関すること
（2）他者の意図や感情の理解に関すること
（3）自己の理解と行動の調整に関すること
（4）集団への参加の基礎に関すること

環境の把握

（1）保有する感覚の活用に関すること
（2）感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること
（3）感覚の補助及び代行手段の活用に関すること
（4）感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること
（5）認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

身体の動き

（1）姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること
（2）姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること
（3）日常生活に必要な基本動作に関すること
（4）身体の移動能力に関すること
（5）作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること

コミュニケーション

（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること
（2）言語の受容と表出に関すること
（3）言語の形成と活用に関すること
（4）コミュニケーション手段の選択と活用に関すること
（5）状況に応じたコミュニケーションに関すること

自閉症の子どもに見られる困難さの例

じかつろう

体調の変調がわからず無理してしまう（健 1）、感覚の過敏さやこだわりによって情緒が不安定になる（健 4）ことがあります。

興奮した気持ちを静めたり（心 1）、急な予定の変更に対応することができず不安になる（心 2）ことがあります。

他者と関わる方法が十分に身に付いていない（人 1）、言葉や表情などから相手の思いを読み取ることが難しい（人 2）、自分の長所や短所に関心が向きにくい（人 3）ことがあります。

聴覚や触覚などの過敏さがあるために強い不快感を抱き、それにより感情や思考が混乱することがあります（環 2）。
「もう少し」などの抽象的な表現を理解することが苦手であったり、興味のあることに没頭して活動の全体を把握できない（環 4）ことがあります。

自分のやり方にこだわったり、手足を協調させてスムーズに動かすことが難しかったり（身 5）します。

相手には理解されにくい方法で意思や要求を表出する（コ 1）ことがあります。
自分の考えを相手に正しく伝えたり、話を聞く態度が適切でなかったり（コ 2）します。
会話の内容や周囲の状況を読み取ることが苦手で、場にそぐわない受け答えをすることがあります（コ 5）。

※例えば、（コ 1）は、「コミュニケーション」の「（1）コミュニケーションの基礎的能力に関すること」を指します。

子どもの実態からつけたい力（指導目標）と指導内容を考えましょう

カノンちゃんの自立活動の指導目標と指導内容を考えてみましょう

1 ６区分で学習上・生活上の課題と長所やよさを整理して、中心的な課題を考えましょう

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	◎ 興味のある学習には意欲的に取り組む【心（1）】※ △ 失敗等によるネガティブな気持ちを言葉で伝えることができず、激しく落ち込む【心（2）】	△ 友達や教師の言葉や表情に非常に敏感であり、正しく理解することが難しい【人（2）】 △ 自分の気持ちをどう伝えればいいかわからない【人（3）】			△ 友達や教師の言葉や表情から状況を読み取り、やりとりを続けることが難しい【コ（5）】

中心的な課題

○失敗すると落ち込んでしまう気持を、どのように伝え、対処すればいいかわからない

○友達や教師の言葉の意味や気持ちを正しく理解することが難しい

カノンちゃんの場合、失敗をすると落ち込みが激しくなるのは、失敗することで友達や教師にどうみられるかを非常に気にしているからだと思います。
そのため、自分の経験を振り返り、その時の自分の気持ちや友達の反応について整理し、正しく理解するとともに、落ち込んでしまう時にどうすればいいか、一緒に考えていくことが必要ですね。
また、交流学級では、成功体験を積むことで、カノンちゃんが自分の得意なことについて知ることができると良いですね。

2 長期目標と短期目標を考えましょう

個別の指導計画を作成する時は、長期目標は「１年間」、短期目標は「学期ごと」で立てましょう。

長期目標　自分の気持ちや友達の反応を正しく理解し、状況に応じて自分の気持ちを伝えることができる

短期目標　自分の経験を振り返り、自分の気持ちや友達の反応について整理し、落ち込んでしまう時の対処方法をみつける

カノンちゃんの長所やよさを活かした指導ですね！

3 短期目標を達成するために、具体的な指導内容を考えましょう

①自分の経験を振り返り、その時の自分の気持ちや友達の反応について知る。

○カノンちゃんがとらえる自分の気持ちについて、教師は共感的に受け止め、教師に言葉で伝えることで落ち着く経験を積む。【心（1）】

○成功した経験や失敗した経験について、注目してほしい観点（自分の気持ちや友達の反応等）を事前に明記したワークシート等を用いて振り返る。【人（2）、（3）】

②落ち込んでしまう時の対処方法をみつける。

○カノンちゃんの学習意欲が高い内容を取り入れ、友達から良い評価をもらう等の成功体験を積み、自分には得意なことがあることについて知る。【心（1）】

○特別支援学級や交流学級での授業で振り返りを行う際に、学習や活動がうまくできなかった時の気持ちについて話し合い、友達はどんな対処をするかについて知ることで、自分にあった対処方法について考える。【人（2）、（3）、コ（5）】

※【　　】は、６区分 27 項目の内容を指します。

カノンちゃんは、「心理的な安定」と「人間関係の形成」の項目を関連付けて指導しましょう。

交流先の先生ともカノンちゃんの自立活動の指導目標を共有しましょう。

だいすけくんの自立活動の指導目標と指導内容を考えてみましょう

1 ６区分で学習上・生活上の課題と長所やよさを整理して、中心的な課題を考えましょう

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	△ 気持ちを抑えることができず、すぐに行動にうつしてしまう【心（1）】 ◎ 学習意欲はあり、積極的に取り組もうとする【心（3）】	△ 思い通りにならないと、逃避してしまう【人（1）】			△ 自分の思いや考えを言葉等で相手にわかるように伝えることが難しい【コ（1）（3）（4）】 △ 逃避すると、教師がいくら言葉かけしても応じない【コ（2）】

中心的な課題

○積極的に学習に取り組もうとするが、思ったことをすぐに行動にうつしてしまう。

○自分の思いや考えを衝動的、あるいは逃避といった行動で表現するため、相手に意図が伝わらずに注意されてしまうことが多い。

だいすけくんは、やりたいことや伝えたいことがある時に、言葉や相手にわかる方法で表現するのではなく、衝動的な行動で表現してしまいます。
また、思い通りにならなかった時の「嫌だ」という気持ちの伝え方がわからない、そうした気持ちを抑えることが難しいために、その場から離れてしまうんですね。
このため、だいすけくんの中心的な課題は、相手のことを意識し、自分の思いや考えが相手に正しく伝わる表現方法を身に付けること、そのためにも落ち着いて他者と関わることができるようになることですね。

個別の指導計画を作成する時は、長期目標は「１年間」、短期目標は「学期ごと」で立てましょう。

2 長期目標と短期目標を考えましょう

長期目標　自分の思いや考えを相手に正しく伝えるための表現方法を身に付けることで、落ち着いて相手とやりとりすることができる

短期目標　手がかりを用いて、自分の思いや考えを相手に伝えようとすることができる

だいすけくんの学習意欲を引き出す内容を取り上げましょう

3 短期目標を達成するために、具体的な指導内容を考えましょう

①自分の思いや考えを伝えるために語いを増やし、手がかりを用いて表現する方法を身につける

○教師が、だいすけくんの思いや考えを言語化することで、状況に合った語いを増やす。【コ（3）】

○言語化することが難しい表現は、単語カードや絵カード等の手がかりを用いることで、相手に自分の思いや考えを伝えることができることを知る。【人（1）、コ（2）（4）】

②落ち着いて自分の思いや考えを伝える

○だいすけくんの関心のある話題を取り上げたロールプレイを通じて、相手の話を聞いて話したり、穏やかな口調で相手に接したりする。【心（3）、人（1）、コ（1）（2）】

○発表場面では、ワークシートやノートに一度、自分の伝えたいことを書きとめてから伝える。【心（1）、コ（4）】

※【　　】は、６区分 27 項目の内容を指します。

だいすけくんには、「心理的な安定」「人間関係の形成」「コミュニケーション」を関連付けて指導しましょう。

自立活動の時間における指導だけではなく、他の指導場面でも意識して取り組みましょう。

自閉症のある子どもの自立活動の授業を組み立てる上での要点

Ⅰ．個々の子どもにつけたい力（指導目標）を絞り込み、具体化しましょう

○困った行動だけでなく、その子にとっての強み（得意なこと、興味や関心）を押さえましょう
○困った行動が生じている理由を考えましょう
○子どもにつけたい力を具体化しましょう
○長期目標→短期目標→本時の目標と目標間のつながりを意識しましょう

Ⅱ．自閉症の特性を踏まえて指導方法を工夫しましょう

○子どもの興味や関心を取り入れた学習活動や教材を取り上げ、動機付けを高めましょう
○子どもの主体的な発言（つぶやき）や行動を大切にしましょう
○視覚的な手がかりは、何のために用いるのかを明確にしましょう
○情報は、整理して伝えましょう

PDCA サイクルを意識して、自立活動の指導を行いましょう

Ⅲ．指導の振り返りをして、授業改善に活かしましょう

個別の指導計画に基づいて、個々の指導目標の達成状況を振り返りましょう

①指示・教示は、子どもが理解できる伝え方でしたか？
②発問の意図は、子どもに伝わっていましたか？
③教材は、子どもの理解に応じた内容、興味・関心を喚起するものでしたか？
④学習環境（座席配置や板書等）は、子どもの活動への参加や理解を促すものでしたか？
⑤どの場面で、子どもは困難さを感じて（つまずいて）いましたか？それはなぜだったのでしょうか？
⑥どの場面で、子どもは主体的に学んでいましたか？それはなぜだったのでしょうか？

指導による「子どもの変容」を捉えることが大切です

「自閉症のある子どもの自立活動の授業作りの要点」については、こちらのリーフレットをご覧ください。

「指導目標の設定（見直し）のポイント」については、こちらのリーフレットをご覧ください。

本リーフレットは、研究協力者の皆さんのご協力をいただき作成しました。

■金子　道子　先生（千葉県柏市立西原小学校）
■島田　千晶　先生、三浦　智子先生（福井県鯖江市惜陰小学校）
■小林　倫代　先生（国立特別支援教育総合研究所　名誉所員）
■南　友珠　先生（京都府長岡京市立長岡第七小学校）
■北村　英之　先生（福井県福井市立灯明寺中学校）
■野呂　文行　先生（筑波大学人間系　教授）

■自閉症教育研究班（柳澤　亜希子、李　熙馥、棟方　哲弥）

＜発行元＞
独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所
〒 239-8585　神奈川県横須賀市野比５－１－１
ＴＥＬ：０４６－８３９－６８０３　ＦＡＸ：０４６－８３９－６９１８
＜問い合わせ先＞
インクルーシブ教育システム推進センター　主任研究員　　柳澤　亜希子（自閉症教育研究班長）

（令和２年５月発行）